

一般社団法人日本循環器看護学会

平成30年度事業計画 (平成30年8月～令和元年7月)

常設委員会	事業計画
学術	<p>1. 日本の循環器看護領域の学術的発展の推進のあり方の検討を目的として、海外の循環器看護に関連するの会との交流を図る</p> <p>(1) The Global Cardiovascular Nurse Leadership Forum (GCNLF)の加盟団体及びその関連団体との交流を図る。</p> <p>2. 循環器看護領域の学術的基盤の構築と発展に向けた、用語、定義の検討をする</p> <p>(1) 循環器看護定義(案)の推敲及び定義公表を行うワーキングメンバーを形成する</p> <p>(2) 諸外国における(GCNLFを基盤に)循環器看護領域の用語、定義の情報収集を行う</p> <p>(3) 循環器看護のScope of Practiceの明文化に向けた情報収集及び内容の検討を行う</p> <p>3. 教育セミナーを開催する(3回/年)※第34, 35, 36回 教育セミナー開催</p> <p>(1) 様々なレベルの循環器看護の実践家、教育者、研究者に対応できるセミナー企画・運営を行う。</p> <p>(2) 慢性心不全看護認定看護師などの継続教育機会を含めたセミナー運営を行う。</p> <p>開催予定日時、場所およびセミナー内容</p> <p>平成30年11月～12月 (東京) 循環器看護の経験がありさらに高度な知識・技術の習得を目指す方、慢性心不全看護認定看護師や他領域の認定看護師の方</p> <p>平成31年5月(仙台) 初めて循環器看護に携わる方、循環器看護の基礎を復習したい方</p> <p>2019年6月(大阪) 心不全患者の緩和医療と緩和ケア 心不全緩和チーム医療に関心のある方、実践されている方</p>
学会誌編集	<p>1. 日本循環器看護学会誌年2回(第14巻第1号,第14巻第2号)の発行、第15巻第1号の発刊準備</p> <p>2. 電子投稿システム運用の評価・改善</p> <p>3. 電子投稿システムの導入に伴う編集委員会マニュアル、査読ガイドライン等の見直し</p> <p>4. 次期専任査読委員の検討</p> <p>5. 投稿原稿の活性化へ向けての対策の実施</p> <p>第15回学術集会でのセミナー・投稿相談会の開催</p>
政策・診療報酬	<p>1. 循環器看護分野の政策的課題の検討</p> <p>2. 医療保険に関する外部機関への会議等の出席、および渉外</p> <p>(1) 看護系学会等社会保険連合</p> <p>(2) その他関連の会議</p> <p>3. 心不全患者の再入院予防介入プログラム研究の実施(看保連助成金)</p> <p>4. 心不全緩和ケアマニュアルの作成</p> <p>(1) ワーキンググループの組織化</p>
広報	<p>1. 学会ホームページ 会員専用コンテンツの充実</p> <p>2. 会員の研究・臨床実践活動に関する広報活動推進</p> <p>3. ニュースレター第12・13号の発行</p> <p>4. メーリングリストの運用開始</p>
倫理	<p>1. 申請のあった研究に対して、規定に基づき倫理審査を行う</p> <p>2. 個人情報保護に関する問題が生じた場合に対応を行う</p> <p>3. 本学会の研究に関する「利益相反指針」を運用する</p> <p>4. 一般社団法人日本循環器看護学会倫理綱領に関する問題が生じた場合に対応を行う</p>
国内交流	<p>1. 本法人の国内の循環器看護関連法人・学会・研究会などを中心とした諸団体との交流をはかる。</p> <p>(1) 委員が所属する関連他学会の活動、理念を集約する。</p> <p>(2) 本学会における他学会とのジョイントシンポジウムの開催の流れ、学術集会の企画委員と国内交流員の役割の分担などをまとめる(第15回学術集会のジョイントシンポジウム運営を参考に)</p> <p>2. 上記1にともなう、本学会の窓口となる。</p>
選挙管理	<p>1. 法人第2期における選挙の実施</p> <p>・30年8月上旬 投票用紙の回収</p> <p>・30年8月中旬 開票作業を終え、理事を選出し、理事会に報告</p> <p>2. 30年定時社員総会にて新理事の承認を得る</p> <p>3. 選挙後の後始末及び反省点の整理</p> <p>・投票用紙等をシュレッターで廃棄する</p>
総務	<p>1. 会員管理のシステム化</p> <p>2. 各委員会の活動支援、調整</p> <p>3. 理事会、社員総会、会員総会の運営補助</p> <p>4. 会員獲得に関する事業</p>